



お元気ですか！
志村 たかよし です

第792号 2016年6月12日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

くるくる変わる「豊洲・晴海開発整備計画」

住民の声を無視し、清掃工場、豊洲市場、選手村…

左の絵をごらんください。
90年6月に策定された「豊洲・晴海開発整備計画（豊・晴計画）」で描かれていた晴海の整備イメージ図です。
当時の鈴木都政が都心と臨海副都心の中間に位置する豊洲地区と晴海地区を一体的に開発すべき地



「豊洲・晴海開発整備計画」で描かれていた晴海5丁目の整備イメージ

域と位置づけて策定したものです。それから26年、この「豊・晴計画」は、地元の声を無視して、大企業と一体の都政によって次々と変えられてきました。

「国際交流拠点」から「清掃工場」さらに「選手村」へ大変身

晴海5丁目は、当初の「豊・晴計画」では、「国際交流拠点」と位置づけられ、計画の「目玉」とされてきました。

ところが、晴海の一部で「清掃工場」建設が強行され、01年8月から稼働しました。

さらに、16年オリンピック開催地立候補では「メインスタジアム」計画が打ち上げられましたが、誘致計画は失敗しました。

すると次に、2020年開催地立候補では「五輪選手村」と位置づけられ、今、選手村とその後巨大な民間住宅建設（裏面にイメージ図）へと動いています。

東京都の都合と大企業の要求で、このころと計画の変更が行われているものでしょうか。

晴海の居住人口を3万1千人から4万3千人へ、4割増の計画

90年の当初計画では、晴海地区の「開発フレーム」約107畝の土地に「居住人口3万1千人程度、就業人口3万9千人程度」とされていました。

ところが、16年1月発表の「豊・晴計画改定（案）」では、「居住人口4万3千人程度、就業人口3万6千人程度」とされたのです。

居住人口を約4割も増加させる計画です。

16年5月1日現在、晴海地域の総人口は1万771人ですから、約4倍もの人口を想定しているのです。

これでは、過剰な「人口密度」のまちなってしまいます。

無秩序な乱開発が学校施設・保育園など区民施設計画に大きなしわ寄せ

学校用地など、区民施設用地の配置計画も変わってきました。

90年の当初計画の「整備方針」



海辺に開けた景観と調和

- ・街区内から水辺への視線・動線の確保
- ・海から見た住宅街区の良好なスカイライン
- ・住宅街区と周辺の緑地・広場との一体感

開放的な広場空間

- ・港の景観を楽しむ散策路（レインボーブリッジなど）
- ・海を臨むカフェなどの設置

変化のある街並み・建物形態

- ・色彩の緩やかな変化（低層部⇒高層部）
- ・壁面デザインの工夫（表面に凹凸）

※現時点でのイメージです

は「ゆとりとうるおいのある都市生活が営めるよう、福祉、教育、文化等の各種生活関連施設を整備・拡充する」とし、「整備・拡充する主な生活関連施設の種類の」の一覧が掲載されています。

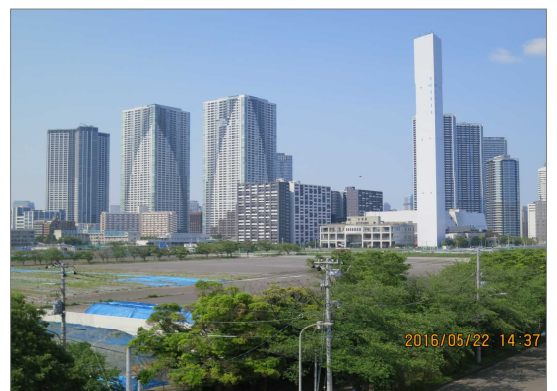
そのなかで、「学校施設」は、小学校4校（既設1校、新規3校）、中学校2校（既設1校、新規1校）と、計画されていました。

そのほか、「福祉施設」として、保育園4、児童館2、学童保育クラブ2、敬老館1、特別養護老人ホーム1、さらに「文化・交流行政施設」として、図書館1、区民センター1、公民館2、出張所1、とされています。

ところが、7年後の97年の改定「豊・晴計画」では、整備方針で「各種生活関連施設を整備・拡充する」から「各種生活関連施設を配置する」という記述に変更し、学校施設では、小学校・幼稚園は4から3へ、保育園も4から3へ計画を縮小しています。

今検討されている16年改定「豊・晴計画」ではその後の変更はないようです。

住民の立場にたった行政を——計画は「絵に描いた餅」であってはならない



晴海の客船ターミナルから選手村予定地を見る。右側に清掃工場の煙突=2016. 5. 22.

選手村とその後利用計画が具体化する中で、16年1月発表の再々改定「豊・晴計画」では、後追いのように計画が変更されています。

これでは、行政の計画は「ご都合主義」といわれてもしょうがないでしょう。

無秩序な大規模開発に圧迫されて、地域住民に必要な区民設計画がどんどん縮小されていくようなまちづくりから、きっぱりとした転換が求められています。

「意見」「要望」など、「お気軽に」連絡ください (03-6390-0000)